

北の技術情報誌
Hint!
Vol.3

北の技術情報誌

Hint!

Hokkaido Information of Technology

第3号

2005.Oct

特集

進化する新技術活用システム

**公共工事等における
技術活用システム**

Try

生まれかわる大地

オーバーリンクゲート/鋼合成サンドイッチパネル

Report

知恵の芽

1台で2役!新雪除雪から拡幅除雪までを一台で対応。
~ロータリ除雪車(多機能型)の開発~

Focus

すすめ!テクノロジー

NETIS登録技術11の「技」

Contents 目次

02 **特集** 進化する新技術活用システム
公共工事等における技術活用システム

07 **Try** 生まれかわる大地
●オーバーリンクゲート 石狩川開発建設部 機械通信課
●鋼合成サンドイッチパネル 札幌開発建設部 滝川道路事務所

11 **Report** 知恵の芽
●1台で2役!新雪除雪から拡幅除雪までを一台で対応。
~ロータリ除雪車(多機能型)の開発~

14 **Focus** すすめ!テクノロジー
[NETIS登録技術11の「技」]
パワーガード工法
省エネ型 電熱式ロードヒーティングシステム
KB目地
航空・地上三次元レーザスキャナーを併用した大規模岩盤斜面の形状取得技術
FDドライ
フライアッシュを利用した建設汚泥の再生工法
「RD遠赤抗酸化液」(新名称「S.O.DLIQUID」)
スノテップ
改質硫黄固化体
アルミと鋼のハイブリッド防護柵
3Dレーザースキャニングによる急崖斜面調査と雪況調査システム

■表紙の解説 北のコンパス
かつて、旅人を新しい世界へと導いてきたコンパスのように、私たちが豊かさへと向かうベクトルとなるのは新しい北の技術です。コンパスの磁針が指し示すのは北の大地。この可能性を秘めた北海道をしっかりと支えるために、新技術の方向性と、テクノロジーを育む環境を考えていきます。

特集 進化する新技術活用システム

公共工事等における 技術活用システム

国土交通省では、公共工事等において、新技術のさらなる活用促進を図るために、産学官の連携を強化し、NETISを用いたこれまでの「技術活用システム」を新技術の開発から現場での試行までを迅速かつ確実につなげる「**評価試行方式**」及びニーズを提示して優れた技術を公募・選定する「**テーマ設定技術募集方式**」に再編・強化しました。

特集では、新たな「公共工事等における技術活用システム」の内容について紹介します。

新技術の評価と活用の“谷”を解消する

従来の技術活用システムは、新技術を“評価”して“活用”につなげるという理念はあるものの、現実には、安全性や耐久性等の不安、活用現場の確保が困難等といった“評価”と“活用”の間に“谷”が存在し、新技術を活用する現場事務所の負担・不安が大きく、活用される新技術は実績の多いものに集中してしまうのが現状となっていました。

そこで、さらに新技術の活用を促進するために、国土交通省では、NETIS[®]を用いたこれまでの「技術活用システム」を新技術の開発から現場での試行までを迅速かつ確実につなげる「**評価試行方式**」及びニーズを提示して優れた技術を公募・選定する「**テーマ設定技術募集方式**」に再編・強化を行いました。

※NETIS:国土交通省が運用している「新技術情報提供システム」。
平成10年度より運用を開始し、平成13年度より一般公開。
平成17年3月末時点で約4千件の新技術情報が登録。
<http://www.kangi.ktr.mlit.go.jp/kangi/index.html>

技術開発が促進され、優れた技術が産み出されるためには、有用な新技術を公共工事等に積極的かつ円滑に導入していくことが重要です。

そこで、新しい技術活用システムの構築にあたっては、以下の3点に着目し「再編・強化」されています。

【技術活用システム「再編・強化」の要点】

- ①実際の現場で新技術を積極的に試行し、開発から試行までを迅速につなげる。
- ②試行の結果から、改善点等を明確にすることで、技術の育成を促進する。
- ③新技術活用評価委員会(以下、「評価委員会」という)を産学官のメンバーに拡充する他、関連研究機関との連携を強化する。

《従来の3つのシステムの課題》

- 【技術指定システム】
●新技術の安全性、耐久性の不安から、実績のない技術の活用が進まない。
●コスト、有効性等が明確でなく、新技術の見極めが困難。
- 【テーマ設定技術募集システム】
●優れた技術を選定後に現場を探すシステムのため、活用現場の確保が困難。
●試行を目的としているのか、推奨を目的としているのか位置づけが不明確。
- 【工事選定技術募集システム】
●システム全体の中の位置づけや総合評価方式との関係が整理されていないため、計画的に執行されていない。

《新たな技術活用システムによる対応策》

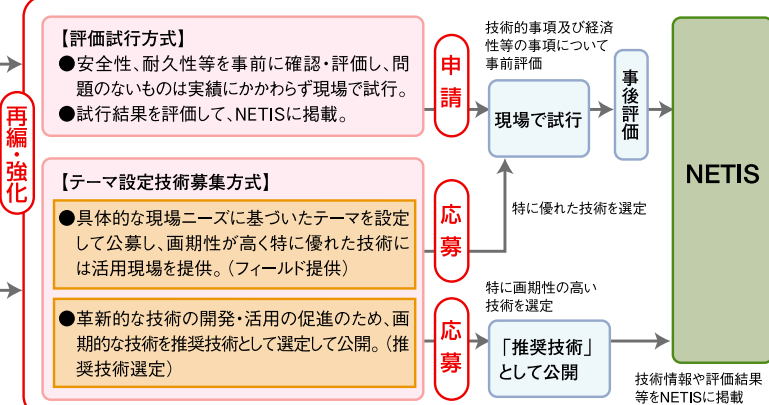


図1 従来システムから新たな技術活用システムへ再編・強化